

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. 研修プログラム名：免疫内科（リウマチ・膠原病科）基礎プログラム

病院名：大阪南医療センター

2. 診療科（専門領域）：免疫内科（リウマチ・膠原病科）

3. コースの概要

当院は、リウマチ・膠原病診療の基幹病院であり、全国でも有数の豊富な症例数、豊富な指導医、研修プログラムにより、優れた臨床医を育成します。研修期間中、リウマチ・膠原病科にてリウマチ性疾患（関節リウマチ、膠原病、血管炎など）について豊富で多彩な症例を経験し、専門的な最新の治療を学ぶことができます。特に関節リウマチに関しては、内科のみならず整形外科にもリウマチのエキスパートが多数在籍しており、内科・整形外科との緊密な連携によって、手術症例についての研修も可能であることが大きな特徴です。また、感染症や臓器合併症など多岐にわたる病態を総合的に診療できる医師の育成を目標としています。

さらに学術的にも、当科における臨床研究への参加を通して、学会発表、論文作成などを積極的に行い、免疫学分野に貢献できる医師の育成を目標とします。

4. 短期目標

リウマチ性疾患の診断に必要な基礎的知識、検査法、また疾患、重症度に応じた治療法の基本を修得することを目的とする。リウマチ性疾患は罹患臓器が全身に及ぶため、病態を理解するための基礎免疫学知識の習得と共に、広く内科全般に亘る基礎的臨床能力の取得もできることを目標とする。

5. 長期目標

関節リウマチの病期、病態を適切に評価し、治療方針を立てることができる。

自己免疫性疾患の診療において感染症との闘いは避けられないものであり、感染症に精通し、予防・診断・治療が適切にできること。

内科学の専門知識と幅広い臨床能力を取得し、内科医としての全人的な育成を行う。また内科診療における問題点を発見、解決する能力を身につける。

他部門との連携やチームの中での貢献が適切にできること。臨床研究、学会発表、論文執筆が行えるようになること。

将来的には、この分野の旗手となりうる人物の養成を目標とします。

## 6. 取得手技

リウマチ性疾患における各疾患の診断基準を理解し、的確な診断および各疾患の活動性、重症度の基礎的判断力が修得できます。

基本的手技を中心に集学的治療に到る各種手技（関節内穿刺、胸腔穿刺、中心静脈確保、輸血療法、血漿交換療法、免疫吸着療法、白血球除去療法、人工呼吸管理等を含む）を習得する機会があります。

関節エコーを外来、検査室（3回/週）で施行しており、手技、評価法を学ぶ事ができます。呼吸器内科との連携により、気管支鏡検査に参加することができます。整形外科との連携により関節の Xp や MRI の読み方や骨代謝の考え方を学ぶことができます。腎臓内科、血液内科、病理との連携により、腎生検、骨髄検査、リンパ節生検の病理学的な評価についても研修できます。

## 7. 研修期間：6ヶ月間

## 8. 募集人員：1名

## 9. 診療科の実績

主要疾患	入院数（年間）
関節リウマチ	448
全身性エリテマトーデス	60
全身性強皮症	40
多発性筋炎/皮膚筋炎	20
血管炎症候群	20
感染症	131

## 10. 診療科の指導体制

診療科	常勤医師数	指導責任者（経験年数）
リウマチ・膠原病科	5	大島 至郎（35年）
整形外科	11	平尾 眞（26年）

## 11. コンセプト

関節リウマチ、膠原病の罹患臓器は全身におよび、幅広い内科的知識を要求されるため、視野の広い診療を目指し、総合的な病態の理解に努めることを診療にあたる根本的な姿勢とします。その上で、専門領域においては、免疫学の進歩を認識して最新の知見を得、病態の理解を深めることを目標に研修をします。当院は全国でも有数の豊富なりウマチ・膠原病患者さんを診療している基幹病院で、指導医も多数在籍しており、熱意があればこれらの目標は達成されるものと考えます。

## 12. その他（研修関連情報など）

研修教育プログラム（週一回）

臨床カンファレンス（週二回）

関節エコー（週三回）

気管支鏡検査（週二回）